

ああ！ 富士スバルラインタイムトライアル

そして

ああ！！ 親の四暗刻単騎

1年 立山 正之

今日は、なんと1月25日である。しかも時間は23時30分になろうとしている。——去年、54年度の「TOP and LOW」の小林さんの文の最新の記事と、ここまでは全く同じである。ただ一つ違うところは、部誌の最終ページは、約1週間ほど前（つまり、昨日）印刷されたということである。読者の声は、コッとして来い……

などと言いながら去年の小林さんのように字数を分けてしまったようだ。といながら最後にもう一言つけ加えさせてもらいます。

☆ 今日僕の Birthday、なのよ ☆

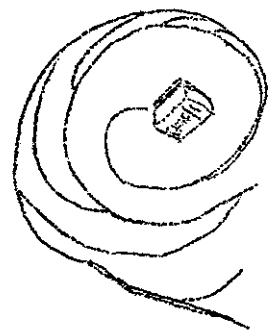
ラッキー！！

しかし、私考えてみると、本は正味1年でやらなければ、「やらずの20才」になってしまっていないか！ 毎年の夏が勝負のおぼた。それまでに4巻の〇〇君に教えるもいかならうか。でも〇〇君は冬じゃないと教へない……？ とかなんとかいながら一言ではななしては。ではさるさる「かん」か。
(さて、何を「かん」のてしよう？) 健康のん おきい おきい

さて、前書きが長く割れたか、ここから手紙な
ライリストにきて、本題に入ろうと思います。

今日は恒例の富士スバル仁下下、か 10月/20日に
行ってきました。実はその帰り、2月/副島より4年4
で副島をやってきて、そして、僕はその日
四時刻乗鞍を降りたので、確か、二萬待た
た。名前の時刻が来たとき、声から「一丁かかっていた
ので、僕はそれに、ドラの三萬を切った勝負したの
です。ドラ単騎では「かかるとか」がないからです。さかい
南家には、通りでしたが、たゞ北家から「熊」の声がかか
たので、かた下「一丁、かた下「ドラ」三、--- 西家副島
は、八丁おりに走りました。僕はこのドラ三萬のホで
二萬はかたり出す事になったと、秘かに期待を抱いたのが
すか。それと僕の強い願いもむなし、その場は流して
しまいました。その後、二萬の行方を探したら、たゞ
副島の手の中で完全に多いた二萬があったのです。
その場では、二萬の待ちで考えられるのは、単騎か、
三つ下「一丁」しかなかった人、--- 一丁一枚
副島が「見守」100を引いてきていたら、たゞ二萬は
かかたでしょう。そうしたら、ひたすら、---
今書きも書きか出そうです。その二（おのきな）
--- この二（おのきな）も、たゞ一人の傍にいて、たゞ
--- の二（おのきな）も、たゞ一人の傍にいて、たゞ

泉は僕は、自らが 雑誌で 下下を担当すると決めた時
から、僕の麻雀史上最大のテンパイだった この四暗刻単騎
をかした 男の悲哀と未練を、もっと長々と書くつもりだと思ってい
たのですが、そんな 世のなごきも 去るも
奪い去るような事件が、つい最近起った
のです。 それは、あの ヒュウキ副島
が、親で いねんの 四暗刻単騎
を ツモったのです。五萬でした。



その時僕はリーチをかけていたのですが、
僕だって 五萬を ツモれば、甲、三暗刻、リーチ 露ツモ、
で、満ガン たったのに……。ワリー 副島 一ト甘汁
吸いあって からに！ たから それに 太りんだゾー——。
とまあ 感情的になったと云うで、麻雀は 鬼だ とい
う 結論を 添えて、この 話題を 終わろうと思ひます。

今後こそ 本当の 本題に 入りませう。(以下 省略 済)

序章 タイムトライピル、その前日

10月11日(土)—— 勉学の道を目指す私は、当然の
ことながら、数学演習、ドイツ語と2つの授業に出席し、着い
出る知的欲求を、いさかながら満足させた。その後、屋敷を
とり、都立→新宿→大目→河口湖YHと向ったので
あるが、途中、大目へ向う車中で、私は、再び頭をまたげ
た知的欲求を、まぎらわすため、車内広告を見回した。
そこを、その一瞬の間に目をやると、私は、じつと単純な

録音に頼るは、

(いい歌 チャレンジ 2万 km をやっている人は、黒く何人
いるのだろうか?)

それとはどうでもよい。とにかく下月へ着いたことと
話を題めよう。

大月から河口湖 YHへは、富士急行を利用するのだが、
深い経済的洞察力を持ち、来ることを前から覚悟、永見さんと
嶋田と私は、YHまで走ることにした。途中、永見さんから
あの面白い "Walk Man" を借りた。私は TUI
"Walk Man" のことだから、きっと 互-ジ-ン か は 注 て も
入っているのだらうと期待したのだが、聞^きてきたのは、
"宇宙戦艦ヤマト" だった。私は永見さんの性格を
あらためて、察^さがった。そして、富士吉田 あたりまで来た
とこで、とにかく雨が降り出した。黒々とした雨雲は、
私達3人が、600円お利の電車賃をかけたことを
まで笑うようになった。おしゃな、追ってきた。しかし、私達の
青春の熱い気は、そんな雨をも水蒸気とし、私達の体
には、一滴の水もかからなかったというこまなかつた。
私達3人は濡れた。なんで男が3人で濡れなければ
ならないのだらうか。私はホセではない。もしかた
ら、嶋田と永見さんが-----。

とにかく、河口湖 YH に FZJ 着いた。

※ FZJ とレガエ

私は何のことか、おぼろげからない。

さて YH では、別に在ったことである。その人が、
ポスターという人種に属して居るのか、それでは、
別に慣れ慣れした人が多し、しかも、それが、
という場合が多いのではないか、例として、
「ロー」として呼ばれるものを言ったとき、
しかもないか、御覧で笑って見たり、
で親しくなるという場は、
アメリカ人ならば、様になるのかも知れないが、
日本人が、どなたも、
また、
かえり、
木こを三に、
し女に、
ポスターの人、
された、

夜はふけて、皆 明日の決闘を前に、
の雨天甲生を前に、寝床に、

~~~~~  
ここで、

テスクの本棚に、  
活開、  
高の、  
岸が「な、



しばらく走ると、山口さんの懸かけのゴールが目の前で、  
壁壁にからかた知る境界にたつて息をついた。最初の真  
理、傾斜を極く、指を握り締め思はず流石に走る走ったが、  
それ無難もたえた。又、走る走る 途向かいの山頂と思  
いた時に、/全目の前指 がある、ついで精神的ショック  
も受けていたから、約1時内を無難に歩いていた  
その後は、山口さんに島いつかのかいぶんで、少し上  
は無難であつた。そこで私は、前を戻して歩いた、  
森をいりぬき、角コロートをかいた。その口は短  
の百巻き紙(今は厚紙の紙)には思いと思ふ方が、IM  
のラウニは、やはりうまかつた。そして、その瞬間私は、前  
の森を歩いた、その口の村に、屋敷の字が、文札で、か  
き上からの、新のを感じた。そこで、山口さんを一気に引き  
離し、その森の中、半目付の壁で、IMのラウニをもう一度  
で、瞬間に飛ばして、いつかである、前には、あつた、  
太陽、石柱は、雄大な雲海、それ、右手には、その  
え、その、島、……。なれ、それ、それがしつた。

そして最後の二、三日の早急な行程は、それ、それ、  
で当然のようには、指をアウターのトップに入れた。そして、  
自分も不思議なくらい、足が軽かつた、不測に軽かつた  
ので、ちよと下を見てみると、なんのこりもない、足を  
はかして歩いた。そして、足をかけ走りぬくと、再び  
足は重かつた、足が、なれ、それが乗れ、切つて、ゴールに  
したと言つてしまふ。(あ、終わった、終わった)。

注：( )の中の語は、そのIMのラウニが終わつたことによる喜び

ではない、無茶な事を続けるヤドがかったことには到底喜ぶの  
表現です。

とにかく T.T は終わった。私は食後の 2 時向を切るこ  
とが出来た。勝田は 奈良ハロウウニの一言に尽きる。  
その後 T.T 命題が 時勢が 決まると言えば、三浦上君の  
健闘が 3 時。彼は 平橋 ラニにあける 屋敷を見事  
晴れて 一帯の中で 上位に くい込んだ。又、パンクの 嶋田君  
のことは 忘れは ならない。彼の 場合 ラニの下 T.T 位向性  
パンクをして、パンクの 意味から、パンクの 嶋田  
ハシ。人の 主目が 物、たの である。あとは、個人的な  
うらみを 添えて、ドリボの 劇集の こと 付け加えて  
おこう。彼は チェーンを 肉側には ぼろぼろ、なかなか  
戻すことが できず、結局 3 時向を 上回る 下記録を  
残して 帰ったのである。

最後に、この T.T の 途中、一帯 印象に 残ったのは、  
四角刻 草騎 であったこと、そして、この 文が T.T 中心で  
なければ ならないのに、T.T のことは、約 2 ページ 命しか  
ないこと 添える 余裕を 添えて、 終わりに したい。  
ちなみに 今日 は もうすでに 2 月 25 日 である。